《第104回》令和四年二月の作品

〈二月十一日（金）通信句会〉

日脚伸ぶ大きな窓の喫茶店　（隆治）

春めくや一日一日が小さき旅　（芙紗）

蝋梅の香や丹沢の水しぶき　（孝昭）

鍋の音聞きつ火加減蜆汁　（一江）

岩陰に踏ん張ってゐる蕗の薹　（正雄）

冬ぬくし道ゆく足の軽やかに　（平六）

御嶽海の優勝

初場所や感謝伝へる御嶽海　（貴美）

節分や吾子の作りし鬼の面　（奉男）

都鳥船岸に着く小名木川　（清助）

病癒え「鬼は外」にも力こめ　（正佳）

ほんのりと雪間の土に日の温み　（前歩）